

動き出した第1ラウンド事業 千葉県銚子市 官民一体で地域共生策スタート

洋上風力発電の第1ラウンド事業が動き出した。千葉県銚子市では、三菱商事が昨年11月に支店を開設し、三菱商事洋上風力とともに市や漁協などと連携して地域活性化につながる共生策を進める方針。施策のひとつとして、市内のローソンで、銚子発の地域産品の販売がスタートした。



出典：三菱商事洋上風力

地ビールと餃子を ローソンで販売

「特産のキャベツを使った餃子（ぎょうざ）の販売促進を手厚くサポートしていただきました」。千葉県銚子市のローソンでは、地元で開発された2つの商品が人気を集めている。2021年12月に発売した「銚子ビール」と、昨年2月に販売を開始した「アフロきやべつ餃子」だ。銚子市の春キャベツの生産量は日本一。葉の巻きがゆるくて柔らかいのが特徴だ。アフロきやべつ餃子は、「規格外」とされて市場に出せず廃棄してしまうキャベツを使って製造したアイデア商品。銚子ビールは、銚子の魚に合うご当地ビールとして2017年に開発された。

コンビニエンスストアのローソンは、三菱商事のグループ企業。三菱商事を中心とする企業連合（三菱商事系企業連合）は、洋上風力発電の第1ラウンドで千葉県銚子市沖と秋田県の2海域の計3海域を落札した。計画では、銚子市沖の約4000haの海域に着床式の風車31基を設置する。

自律的で持続的な まちづくりを目指す

「洋上風力を新たなまちづくりのエネルギーに変え、銚子創生に挑んでまいります」。千葉県銚子市

にあたっては、技術・品質やコストなどを同時並行で総合的に評価していくとともに、地元企業がこのプロセスをクリアできるようなサポートしていく。「仕様については、今後商談が進んでいけば秘密保持契約を締結したうえで開示する」と述べ、参入を目指す企業を支援する考えを強調した。

今年4月に開催した商談会には、千葉県内の機械製造や電気設備製造、金属加工メーカーなど24社が参加した。千葉県エネルギー産業振興室の兼子直史室長は「千葉県には大手の素材メーカーがあるので、そのメリットを生かして1社でも多く契約にこぎつけることができるように支援していきたい」と語る。三菱商事系企業連合も、千葉県と連携してナセルのリアフレームとキャビネット以外の部品を含めた、サブライチエー

ンの早期構築を目指す方針。

メンテナンスに 地元の名洗港を活用

銚子市沖の事業では、洋上風車の建設拠点は鹿島港（茨城県鹿嶋市）、操業・保守の拠点は銚子市東南部の名洗港を活用する。鹿島港は、洋上風力発電設備の設置などの基地港湾として国土交通省が整備を進める。名洗港は、千葉県が今年度から5年間で整備する方針。防波堤の建設や海底のしゅ



2013年に設置された洋上風車。(出典：東京電力リニューアブルパワー)

1本の洋上風車が 思わぬ効果

「数年前からこのあたりではヒラメがたくさん釣れるようになったんですよ」。休日には釣り人が集まる銚子市の名洗港。沖合に巨大な風車と風況観測タワーが並ん

んせつ、岸壁の補修などに総額約48億円がかかる見通し。

1970年代まで同市には、名洗港を国の重要港湾として、火力発電所の誘致や首都圏と北海道などを結ぶフェリーの拠点港にする構想があった。しかし、いずれも夢物語に終わった。市民のあいだでは、名洗港を活用できなかったことが地域経済の低迷を招いたとの思いが強く、洋上風力発電に官民一体で取り組む姿勢につながっている。

で立っている。海面からの高さは126m。最大出力2400kWの大型風車だ。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の公募事業として東京電力グループが2009年に研究を始め、洋上の風況や、塩害に対する耐久性、漁業や環境への影響などを検証しながら風車を開発・建設し、2013年に実証運転が始まった。

この実証機は、国内初の「着床式」の洋上風車として設置され、平均風速7.3m/s、設備利用率32.1%（陸上風車の1.6倍）、大型台風が接近時の安全性の確認、塩害に対する耐久性の確認といった成果をあげたが、それに加えて思わぬ効果をもたらした。潜水調査の結果、海中の基礎部分に藻類が付着し、魚介類がすみ着いていることがわかった。基礎の壁面にイセエビやマダコがすみ着き、その近くではイシダイやメジナ、カンパチの群れが確認されたのだ。

銚子市漁協が 漁場実態調査

「漁業が洋上風力と共生していくための施策、調査を行い、新しい共生策をつくります」。銚子市漁業協同組合は昨年5月から長崎県の潜水会社に依頼して、周辺海域の漁場実態調査や海底地盤の調査

は関東地方の東端にあり、日本列島で最も早く初日の出を見ることができると知られている。近年は人口減少が進み、市の財政も厳しい。銚子市の越川信一市長は、洋上風力発電を通じて、再エネと地域産業が共生する、自律的で持続的なまちづくりを目指している。

昨年4月に銚子市で開催された住民説明会。三菱商事洋上風力の伊原弘雅プロジェクトダイレクターは「30年の長期にわたって、みなさまとともに持続可能な地域共生策を進めたい」と決意を述べた。三菱商事系企業連合は昨年12月、国に認可された洋上風力発電の事業計画と合わせて、地域活性化につながる共生策を正式に公表した。共生策は、「持続可能な漁業支援体制の構築」「地域産業の振興と雇用の創出」「住民生活の支援」の3本柱。三菱商事系企業連合は、地域住民全体のメリットにつながるような施策が実施できるよう、政府・自治体の助成制度や、グループ企業・協力企業のリソースを最大限活用していく方針。グループ企業のローソンや協力企業と連携して、地域産品の販路開拓を進めることにしている。

さらに、豊かな漁場の形成や漁業・産業へのICT活用を進めるほか、次世代リーダーの育成支援、地元の教育機関との産学連携を検討することになっている。洋上

●洋上風車の潜水調査報告



イセエビ



イシダイの群れ



カンパチの群れ



マダコ

出典：東京電力リニューアブルパワー

を始めた。専門のスタッフが地元の漁業者とともに漁獲調査に取り組み、洋上風車を生かして海を豊かにするための方策を探る方針。

銚子漁港の水揚げ量は、12年連続日本一。銚子市沖は、水深200mの大陸棚が広がり、北上する黒潮と南下する親潮、そして利根川の流入による交錯で日本有数の好漁場となっている。サバ、マイワシ、サンマといった多獲性魚のほか、カツオ、マグロなどの回遊魚、キンメダイやヒラメ、カレイといった底魚など約200種類におよぶ近海の魚介類が水揚げされる。しかし、ほかの地域と同様に漁業者の高齢化が進んで、後継者不足が深刻化している。

三菱商事系企業連合は、漁業との共生や振興のための基金として総額118億円を拠出する予定。118億円の内訳は、銚子、旭両市の基金に計100億円、県漁業

風力発電の建設や運転・メンテナンスに際しては、地元企業や、市・漁協などが設立した銚子協同事業オフショアウインドサービス（COWS）を最大限活用する方針。

風車の部品供給網 早期構築を目指す

「部品製造の委託先を決めるまでに、どのような手順を踏んでいくのか」「参入を検討するにあたって、より詳細な仕様を知りたい」。今年1月に県内企業を対象に開かれた説明会。千葉県は、県内企業に風車の部品製造への参入を呼びかけている。現在、地元での部品調達を検討しているのは、風車のナセルのリアフレームとキャビネット。今年1月の説明会で風車メーカー側は、「委託先を決める



地元の教育機関との産学連携を検討。(出典：千葉科学大学)